

ヒロシマ・
音の記憶
Vol.3 ~歩み~

1975
1980
1985
1990
1995
2000
2001
2005
2010

2015 2012.12.7(金)

開演/19時00分(開場18時)

場所/純音楽茶房 ムシカ

出演/研井貴馨子(ピアノ)
山本綾香(フルート)
トニー・ハウズ(ヴォーカル)

主催/「ヒロシマと音楽」委員会
(特定非営利活動法人 ANT-Hiroshima 事務局内)
Tel:(082)502-6304
E-mail:hiroshima_ongaku@yahoo.co.jp
<http://hirongaku.com/>

後援/広島市、広島市教育委員会、(財)広島市
未来都市創造財団、広島市文化協会、
中国新聞社、中国放送、広島テレビ、
テレビ新広島、広島ホームテレビ

第1部

《白い道》 (flute, vocal, piano)
詞／伊藤笙 曲／マル・ウォルドロン

《死んだ男の残したものは》 (vo., p.)
詞／谷川俊太郎 曲／武満徹

《Pieces of peace》 (vo., p.)
詞・曲／トニー・ハウズ

《HOPE 希望》 (vo., p.)
詞／谷川俊太郎 曲／秋吉敏子

《ピアノのための「碑の影」》 (p.)
曲／松本憲治

《心の「グリーンスリーブス」-内なる慰安のために-》 (p.)
曲／松本憲治

*** 休憩 20分 ***

第2部

《HALIL》 (fl., p.)
曲／レナード・バーンスタイン

《平和の街のために》 (p.)
曲／ハービー・ハンコック

《翼》 (vo., p.)
詞・曲／武満徹

《イマジン》 (vo., p.)
詞・曲／ジョン・レノン

本日の演奏曲について

◇ハービー・ハンコック

《平和の街のために For the city of peace》(1975)

ジャズ界の帝王、ハンコックが1975年に来広した際、広島への復興ぶりに心を打たれて作曲したピアノ・ソロ作品。作品は広島市に献呈されるとともに、ハンコック自身によって広島市公会堂で初演された。

◆マル・ウォルドロン

《白い道 White Road》(1995)

日本やヨーロッパで大きな支持を集めたジャズ・ピアニスト、ウォルドロンは、原爆資料館で出会った一編の詩に心を奪われ、1995年8月6日に善正寺で開催したライブで詩を音楽にした。詩の作者、伊藤笙は生後40日の時に被爆し、詩を書いた当時はまだ14歳の少年であった。

◇秋吉 敏子

《HOPE 希望》(2001)

日本ジャズ界の草分け的存在である秋吉は、原爆犠牲者に捧げる曲の創作依頼を受け、ジャズ・オーケストラのための《ヒロシマーそして終焉から》を作曲した。2001年8月6日に広島で初演。その後、第3楽章となる《HOPE 希望》に谷川俊太郎が詩を付け、ヴォーカル・ソロや合唱曲としても人気を博すようになった。

【作曲者自身による解説から】

◆松本 憲治

《ピアノのための「碑の影」 Shadow of the Monument for Piano》

中区寺町に母方の親戚の墓がある。物心ついた頃から、毎年8月の墓参りに「仕方なく」連れて行かれる。罅割れている墓石は夏の強い日差しを受け、くっきりと影を引く。その影に交錯してなぜかもう一つの影が焼き付いている。物理的なγ(ガンマ)線の跡だと知ったのは後年のこと。モチーフはその「影の線」の記憶から。自由な形式で書かれた幻想曲。四度、五度の堆積和音の変質によるモチーフに導かれ、時に沈黙を挟みつつ様々な振る舞いを見せ、微細な「陰影」を作って終わる。「ピアノ線とハンマーによる純粹に無機的で物理的な音響の持続」。この曲は「ピアノのための三つのパンセ」の最終曲で94年に矢野吉晴氏より委嘱初演。横浜で再演。

◇松本 憲治

《心の「グリーンスリーブス」-内なる慰安のために- “Greensleaves” in my heart -for inner consolation-》

93年に矢島綾子氏に委嘱されたもの。プロテスタント教会での静かな集会の祈りの為。「Greensleaves」は16世紀のイングランド民謡といわれる旋律で、さまざまな替え歌や多くの作曲家によるパラフレーズがあり(ボーン・ウィリアムズによる「グリーンスリーブスによる幻想曲」が頃に有名)、宗派、民族を問わず世界中で愛好されている旋律の一つ。この「人を遙かな想いに導く」旋律をモチーフにした瞑想的なピアノの為のパレフレーズ。

曖昧な「霧」の中、微かに鐘(弔鐘)が響く。人は「遙かな」自らの心の中に静かに降りて行く。気持ちが揺れ、現れて来るさまざまな思い出。それらを宥めながら、最後に再び遠くから鐘が響く。

《白い道 White Road》 詞;伊藤笙／曲;マル・ウォルドロン

白い道
ヒロシマの白い道

母は その焼けつく道を
ちぎれたモンペをはいて
はだしで歩いた

生まれて 40 日のボクは
その胸に抱かれ
すずやかな眼で
深く青い空を
眺めていたという
白いキノコの雲が
ナマコのように
横へ横へと
広がっていた

真夏の幻想は
忌まわしい昔の
出来事とともに
限りなく悲しい

一筋の白い道の映像は
母とボクの
心のすみにうずくまり

消え去ろうともしない

それは
白っぽいほこりと
憂いによごれて
歩いても歩いても
果てることはない

始めこそあったが
終わらない道を
十四年も歩きつづけて
母も疲れた
ボクも疲れた

襲ってくる寂しさと
疲れのために
身を横たえた時
母の涙が
ホコリの地図を残して
ボクの頬の上に
流れ落ちたという

白い道
ヒロシマの白い道

伊藤笙

1945年8月6日

8時15分

《Hope 希望》 詞;谷川俊太郎／曲;秋吉敏子

希望 それはこころ
あふれやまぬ ひとのいのち
よみがえる草木 朝日とともに
明日へとこころは かがやいて

忘れられぬ 日々も
子どもたちの 未来のため
こころよ飛べ 夢見る世界へ
希望 あふれて



撮影者:山端庸介 撮影日:1945.08.10 撮影地:長崎市

{上:《HOPE 希望》CDレーベル(CRCP-10157)に掲載された写真}
『あの日、広島と長崎で』平和博物館を創る会・編(平和のアトリエ刊、1994年)所収

ヒロシマ音楽譜

作品が紡ぐ復興

⑧

爆心からわずか1キロ、奏者であったことでも善正寺のある広島市中区 知られる。ホリデイの死寺町近辺はあの日、爆風 後、彼女をしのんで製作による建物倒壊とその後 された「レフト・アローの火災により壊滅状態であつたという。建物ととも ヤズ・ファンを魅了しにもに任職らを失つたその た。

マル・ウォルドロン

日、被爆後の長い道のりをうたう詩をもとにジャズのライブ演奏が行われた。

ニューヨーク生まれ、

ベルギーを拠点に活躍した世界的ジャズ・ピアニスト、マル・ウォルドロン(1925〜2002年)は、ジャズ・ボーカルの歴史に名高いピリィ・ホリデイ最晩年の伴

50年の節目 寺でライブ



善正寺でのライブに集まった伊藤笙(左)、マル・ウォルドロン(中)、歌手のジーン・リー

詩に魂のジャズ

年。原爆資料館に展示されて「白い道」であった。作者は生後40日目に母親とともに被爆した伊藤がウォルドロンの心にくすぶりの続けた。その後、ウォルドロンもはや言葉にもならない心のうめきのように表現

される。ただし、あらかじめ作られたというよりも即興に近い。まさにその時、その場所で生まれた音楽だ。

この日のライブでは、やはり広島原爆投下になんだ「黒い雨」も演奏されている。こちらは音楽ばかりかテキストも即興に近かったようである。50年前のその日その地で消えた建物や魂が、ウォルドロンら奏者の体を通じて発する声であつたともいえるかもしれない。

レコーディングのため空調は切られ密室状態であるにもかかわらず、300人を超える超満員の会場からは物音一つ聞こえてこなかった。50年の終わらない道のりは、聞き入る人々の心に何を呼び覚ましていたのだろうか。(広島大特任助教・能登原由美)

‡ 出演者 ‡

研井 貴馨子(とぎい たかこ)

広島音楽高校を経て、エリザベト音楽大学卒業。広島国際文化財団第1回奨学生。ベルギー王立リエージュ音楽院ピアノ科ディプロムスペリキュールコース、室内楽科プルミエブリコースを、いずれも審査員満場一致の首席で卒業。広島交響楽団、ルーマニア国立管弦楽団など国内外の多数のオーケストラと共演するほか、NHK FM への出演も重ねる。米近寛氏と結成したピアノデュオ、ミケランジェロ96では、2001年第5回国際ピアノデュオコンクールにおいてディプロマを受賞し、CD『ピアソラ集Ⅰ、Ⅱ』をリリース。現在、広島音楽高校非常勤師。



山本 綾香(やまもと あやか)

広島音楽高校を経て、桐朋学園大学卒業、同研究科修了後、渡仏。菊池洋子、峰岸壮一、アラン・マリオン、オーレル・ニコレ、ミッシェル・モラゲス、パウル・マイゼン各氏に師事。第3回日本木管コンクール第2位。イタリア、キジアーナ音楽院にてディプロマを取得。フランスのエビアン音楽祭にて桐朋学園大学オーケストラと共演。広島交響楽団と共演。現在、広島音楽高等学校非常勤講師。文化学園大学非常勤講師。「AYAKA FRIENDS フルートセミナー」を主催。



トニー・ハウズ(Tony Howze)

アラバマ州出身。1985年よりDJとしてアメリカ、日本各地で音楽活動を開始。1992年より拠点を広島市に置く。アカペラ、SOUL、FUNK、POPS、GOSPEL、JAZZなど幅広いレパートリーをもち、ラジオ出演やセッションへの参加など日本各地でライブ活動を行っている。多くのテレビCMに出演するほか、広島交響楽団との共演も行う。GOSPEL LIVEなどのイベントプロデュースやヴォーカル教室を主宰、またコンサートやゴスペルのワークショップなどを企画、実施。作詞、作曲も手がけ、SOULMOTIONのCD『PEACE-LOVE-HARMONY』をリリース。



純音楽茶房 ムシカ

被爆からわずか1年後に猿猴橋でオープンした音楽喫茶。その年の大晦日にムシカが開催したベートーヴェンの「第九」のレコード・コンサートは、焼け野に生きる人々を音楽で勇気づけた話として今なお語り継がれている。音楽に耳を傾ける場として、あるいは仲間とともに歌をうたう場として、ムシカは被爆後の広島を音楽によって支え続けている。

上記) 広島演奏家協会、県市教育委員会、広島中央放送局主催『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』オペラ公演プログラムに掲載されたムシカの広告
(開催年不明、会場：広島市児童文化会館)